沼津工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	学校行事Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	2021-561	科目区分	一般 / 集中
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 0
開設学科	制御情報工学科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	0
教科書/教材			
担当教員	教務主事		

到達目標

1. 技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について，技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を養う.
2. 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際，チームでの自分の役割を把握して行動し，活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を養う.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について，技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる.	技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について，技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる.	技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について挙げることができる.	技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について挙げることができない.
工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際，チームでの自分の役割を把握して行動し，活動の進捗状況をメンバーに報告できる.	工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際，チームでの自分の役割を把握して行動し，活動の進捗状況をメンバーに報告できる.	工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際，チームでの自分の役割を把握して行動できる.	工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際，チームでの自分の役割を把握して行動できない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本校の教育目的は，１．豊かな人間性を備え，２．社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い，３．もって地域の文化と産業の進展に寄与することである．この目的を実現するために，授業計画に示す活動を通して技術者の社会的役割と責任を自覚する態度と実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢を身につける.
授業の進め方・方法	授業内容：学校が定めた学校行事計画に従う．活動の指導及び出欠席の管理は原則担任とする. 実施場所：ホームルーム（HR）を原則とする．授業内容により実施場所がHRでない場合，学級担任の指示に従う. 評価方法：学校行事への参加（出席）の条件を満たすことにより合格とする.
注意点	授業内容・方法のカッコ内の数字は時間数を示す. 入学式は進級・卒業要件となる時間数にカウントしない.

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	入学式（0）	
		2週	始業式・対面式（2）	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。 チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。 他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。

		3週	1年合宿研修（11）	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。 他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。 日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。 円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。 他者の意見を聞き合意形成することができる。 合意形成のために会話を成立させることができる。 グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。 周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。 社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。 チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。 チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。 当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。 チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。 リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。 適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。 リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている 法令やルールを遵守した行動をとれる。 他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。 自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。
		4週	防災訓練　（高専大会壮行会と併せて 1）	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。
		5週	高専大会壮行会	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。 チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。
		6週	スポーツ大会（4）	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。 チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。 チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。 当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。 チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。 リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。 適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。 リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている
		7週	TOEIC　Bridge（2）	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。 他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。 他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。 日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。
		8週	CBT	
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週	文化講演会（2）	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。

		2週	体育祭（7）	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。 チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。 チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。 当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。 チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。 リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。 適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。 リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている
		3週	高専祭（21）	他者の意見を聞き合意形成することができる。 合意形成のために会話を成立させることができる。 周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。
		4週	終業式（学年末）（1）	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。 チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。 他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	1	前4
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	前7,前12,前13
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	前3,前7
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	前3,前7
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	前3,前7
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	1	前3
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	前2,前3,前9,後3,後4
				合意形成のために会話を成立させることができる。	1	前3,後3
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	前3
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	前2,前3,前6,後1,後2,後3,後4
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	1	前3,前6,後2,後3
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	前3
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	前2,前3,前6,後2,後4
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	前2,前3,前6,後2,後4

				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	前3,前6,後2
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	前3,前5,前6,後2
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	前3,前6,後2
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	前3,前6,後2
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	前3,前6,後2
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	前3
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	前2,前3,後4
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	1	前3

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0